

令和元年、

これからの時代に必要な土木を考える



林 康雄

土木学会第107代会長

平成が終わり「令和」の時代が幕を開けました。土木学会も新しい取り組みに向け動き出そうとしています。

さて、土木界においてはまだまだつてない大変革の時を迎えています。

年齢人口の減少の影響を受け、建設産業においては「担い手確保」が最重要課題となっています。担い手の確保には労働環境の根本的な改善が必要であり「働き方改革」や「生産性の向上」を着実に進めることが喫緊の課題です。若手、女性、シニア、外国人等広範なダイバーシティの推進、人材育成やそれらの環境整備も非常に大切です。さらに、日本の先進技術等によるインフラの海外展開も国を挙げて推進していく必要があります。そして、これらの活動内容を積極的に発信し、広く国民・市民

からの意見にも耳を傾け、相互に理解を深めながら進めることが肝要です。

創立100周年（2014年）では、「あらゆる境界をひらき、持続可能な社会の礎を築く」という100年ビジョンが宣言され、行動計画JSCCE2015が策定されました。2019年はJSCCE2015

多発・激甚化する地震や降雨災害に対し早期の防災・減災対策が急がれるほか、戦後建設した大量の構造物の老朽化にともなうメンテナンス体制の確立が急務となっています。一方、わが国は深刻な人口減少と急激な少子・高齢化社会へ進展して

非常に大切です。さらに、日本の先進技術等によるインフラの海外展開も国を挙げて推進していく必要があります。そして、これらの活動内容を積極的に発信し、広く国民・市民

土木学会は、年代・職域・性別の異なる多くの方々で構成されています。これらさまざまな能力を持つた方々の力を結集し、この変革の時代のさまざまな課題に果敢に取り組み、皆さまとともに解決に向けて取り組んでいきたいと思っております。今後とも、会員の皆さま方より一層のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最終年度として、これまでの活動を振り返り、成果と課題を取りまとめ、次代へつなぐ行動計画JSCCE2020を策定していく年になります。

急激な少子・高齢化社会へ進展してきます。このような中においても、インフラ整備においては選択と集中により、優良な社会資本を形成していく必要があります。また、生産年

土木学会は、年代・職域・性別の異なる多くの方々で構成されています。これらさまざまな能力を持つた方々の力を結集し、この変革の時代のさまざまな課題に果敢に取り組み、皆さまとともに解決に向けて取り組んでいきたいと思っております。今後とも、会員の皆さま方より一層のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

土木学会は、年代・職域・性別の異なる多くの方々で構成されています。これらさまざまな能力を持つた方々の力を結集し、この変革の時代のさまざまな課題に果敢に取り組み、皆さまとともに解決に向けて取り組んでいきたいと思っております。今後とも、会員の皆さま方より一層のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。